

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

第11回 昔の米づくりと農具のうぐ



今回のおうちミュージアムでは、蟹江町で行われていた昔の米づくりと農具のうぐについて、蟹江町出身の画家・佐藤百秋しゅつしんさんがが、さとうひやくしゅうさんが描いた絵とともに紹介します。

① 稲から白米になるまで

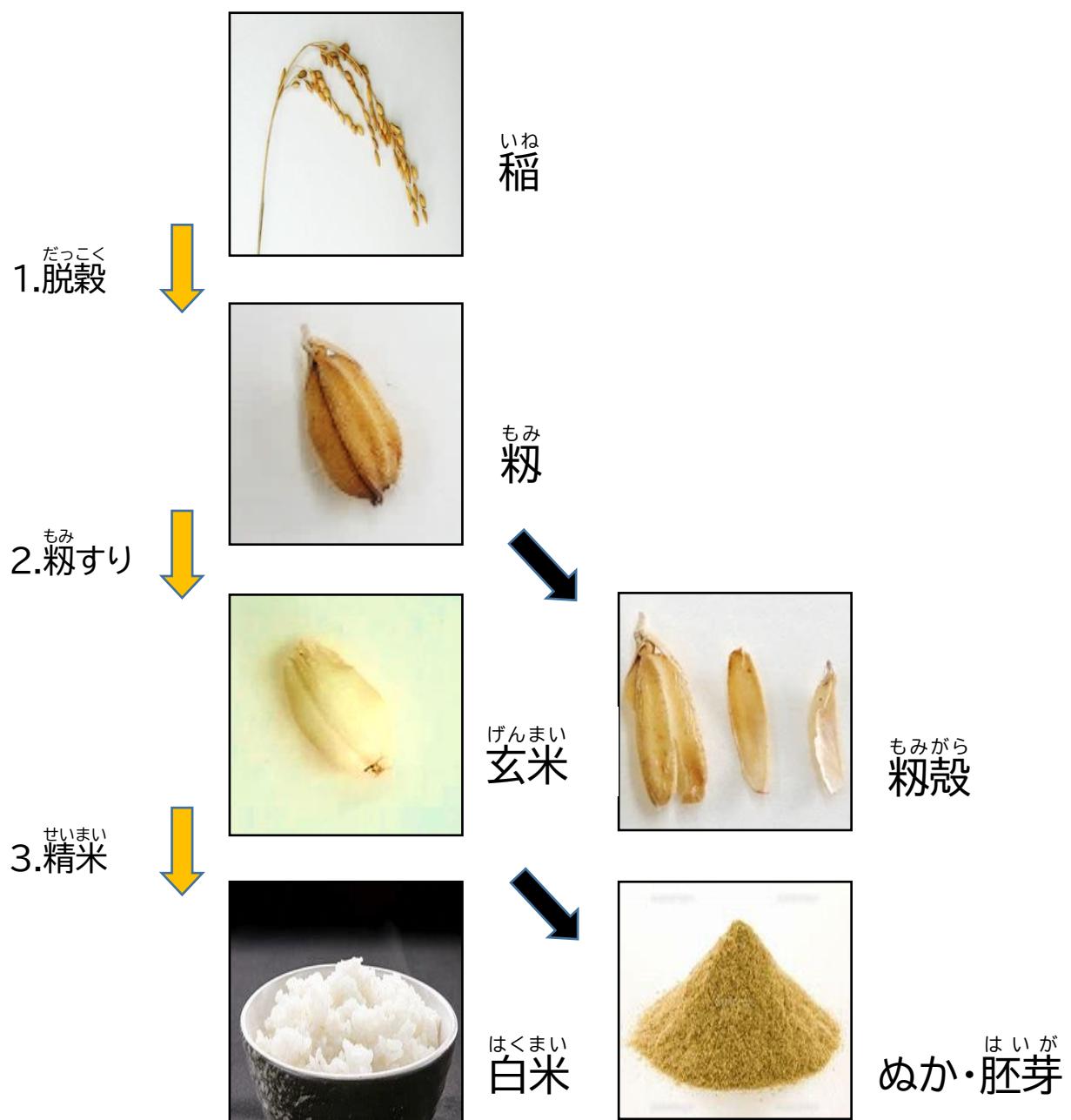
私たちが食べている米は、田んぼで作られる稻の実です。この実を「穀」といいます。穀は黄色い殻に包まれているため、このままでは食べられません。

米を食べるためには、稻を収穫してからもいくつかの作業を行います。

1. 脱穀 … 収穫した稻から「穀」を取り分けます。

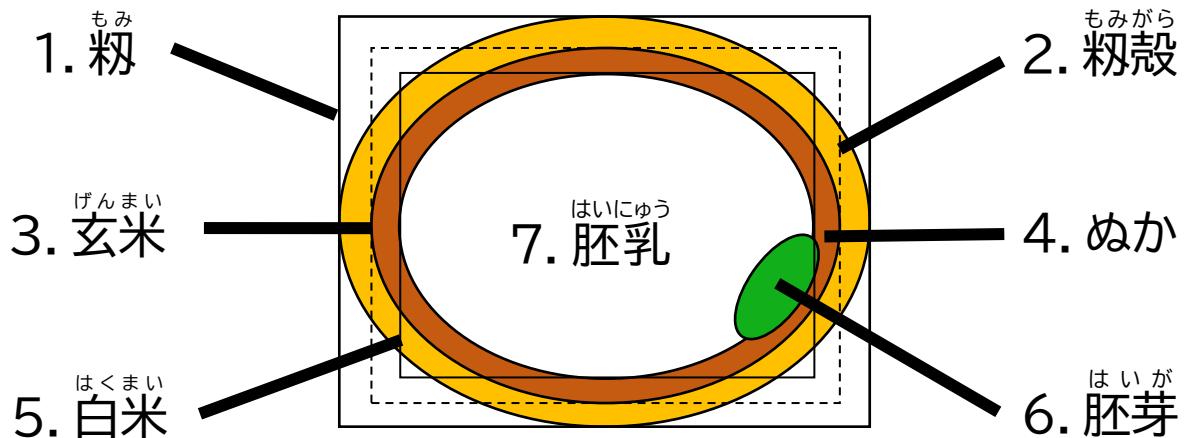
2. 穀すり … 穀を包む殻を取り除いて「玄米」と「穀殻」に分けます。玄米は穀殻を取り除いた米のことで、「ぬか」に包まれています。

3. 精米 … 玄米から「ぬか」や「胚芽」を取り除きます。



② 米の部位について

【米の断面図】

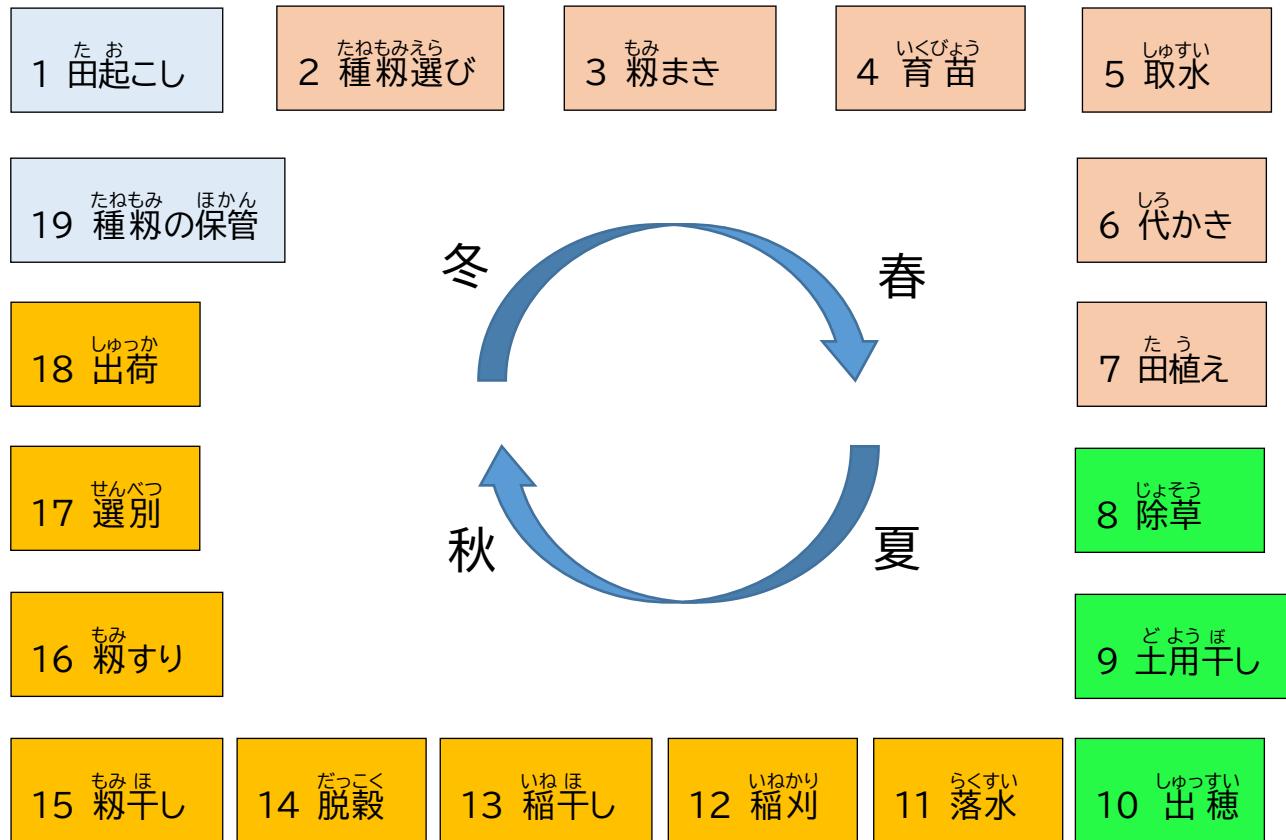


【部位の呼び名】

1. 糜 (もみ) … 黄色い殼 (から) つつに包まれている米です。
2. 糜殼 (もみがら) … 玄米 (げんまい) をおおっている殼 (から) です。
3. 玄米 (げんまい) … 糜 (もみ) から 糜殼 (もみがら) を取り除いた米です。「ぬか」におおわれています。
4. ぬか (ぬか) … たくさんの栄養 (えいよう) が含まれています。
5. 白米 (はくまい) … 私たちがいつも食べている白い米です。
6. 胚芽 (はいが) … 植えたときに、芽 (め) や根 (ね) になります。
7. 胚乳 (はいにゅう) … 植えたときに、成長 (う) するためのエネルギーがためてあります。

③ 米づくりのサイクル

米づくりのサイクルは、一年間でおよそ19の手順に分けられます。



④ 米づくりの手順と道具(その1)

1 田起こし(田んぼの土を 耕 します。)

備 中 鍬(土を 耕 す道具) 柄の長さ 約 120 cm、刃先 25 cm
刃先が2~5本に分かれています。

蟹江町の田んぼは水分が多く土が重たいので、備 中 鍬がよく使われました。



犁(土を 耕 す道具) 高さ 約 120 cm、長さ 約 130 cm
犁は重いため、牛や馬が引っ張る力を使います。
人が耕すよりもずっと効率よく土を耕すことができました。



2 種粒選び(田んぼに植えるための「種粒」を選びます。)

3 精耕(種粒を苗代(苗を育てるための田んぼ)にまきます。)

4 育苗(種粒から芽が出て、苗になるまで育てます。)

5 取水(田んぼに水を入れます。)



左が「踏車」、右が「取り桶」という道具です。どちらも田んぼに水を入れるために使われました。

6 代かき(水を入れた田んぼの土を平らにならします。)



牛を使って田んぼを平らにしたり、鍬で耕したりしています。奥の人は、田んぼに肥料をまいています。

コマザラ(田んぼの土をならす道具) 柄の長さ 約 210 cm、刃先 8 cm
土が固いままだと田植えができません。田んぼに水を入れたあと、土の上で何度もコマザラを押し引きしてすりならし、田植えをしやすくしました。



コマザラ

7 田植え(育てた苗を田んぼに植えます。)

苗力ゴ(苗を運ぶ道具) 大きさ 約55cm、深さ 約16cm

苗代で育てられた苗は、苗力ゴを使って田んぼまで運びました。苗には水や泥が付いており重いため、少しでも軽く運べるように水を切るための隙間があります。

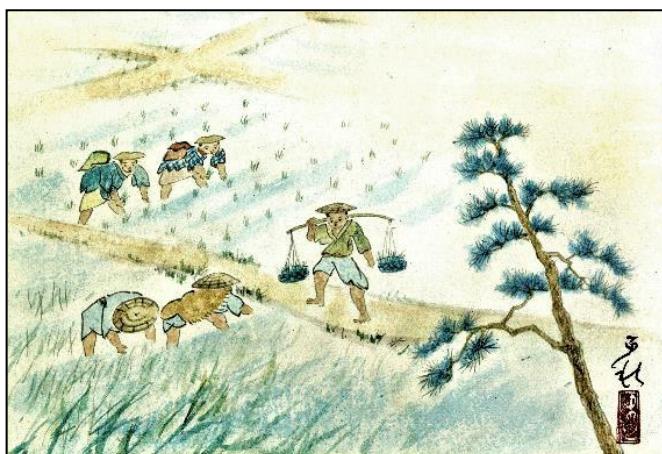
天秤棒(物を運ぶ道具) 長さ 約165cm、幅 約7cm

「担い棒」ともいいます。棒の両端や中心にいろいろな物を吊るし、肩に担いで運びました。苗力ゴなど、さまざまな物と組み合わせて使いました。



苗力ゴ

天秤棒



中央の人は、苗力ゴと天秤棒を使って苗を運んでいます。田植えをする人に、タイミングよく苗を渡しました。植えられた苗が、きれいに並んでいるのが分かります。

正条植え(苗の縦と横の間隔をそろえる田植えの方法)

今の田んぼでは、苗の縦と横の間隔をきれいにそろえて植えています。この植え方を「正条植え」といいます。こうすることで除草のときに動きやすくなるほか、稻の密を避けて害虫や病気の被害を抑えやすくする、日光がむらなく当たるため稻が成長しやすくなるなど、多くのメリットがあります。

田植えを済ませても、米づくりはまだまだ終わりません！

続きは、おうちミュージアム 第12回「米づくりと昔の農具・その2」をご覧ください！